
日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2009 年度 NO.2

目次

- ・ 会長就任にあたって
- ・ 会長任期を終えて
- ・ 第 10 回大会を開催して
- ・ 第 11 回大会を開催するにあたって
- ・ 学会創立 10 周年「記念フォーラム」が開催
- ・ 理事会報告
- ・ 2009 年度総会報告
- ・ 会則改正について
- ・ 2008 年度事業報告ならびに決算報告
- ・ 2009 年度事業計画ならびに予算
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 2009 年度高良記念研究助成対象者決定
- ・ 2009-2010 年度役員について
- ・ 2009-2010 年度委員会等構成について
- ・ 支部活動報告（関西支部、九州支部）
- ・ 事務局からのお知らせ

会長就任にあたって

—学術と実践との往還のアゴラとして—

このたび、日本インターンシップ学会第三代会長に就任いたしました吉本です。田村紀雄前会長はじめ諸先輩方が開拓されてきたインターンシップ研究 10 年の蓄積を踏まえて、皆さまとともにこれからの 10 年、20 年を設計しつつ、着実に学術研究活動を進めて参りたいと存じます。

いま、職業教育・キャリア教育に大きな社会的な関心が寄せられています。中央教育審議会では、「学校教育において、学生・生徒の社会・職業への円滑な移行を図るとともに、移行後も自立した社会人・職業人としてのキャリア形成を支援する」ことを基本課題として位置づけ、そのために「職業を明確に意識した教育に特に重点を置く」学校教育の再構築について、そして「インターンシップを義務づける」新たな高等教育の枠組み・制度にも踏み込んだ議論が行われています。

インターンシップを専門的に研究する本学会は、なによりも学術的な探究の場であり、直接こうした議論や社会的関心に対して方向を提示することだけを課題とするものではありませんが、これまでの研究蓄積を通して、そうした実践の問いにも十分対応しうるし、またそうすべき責任があると思います。インターンシップ制度の展開と歩調を合わせながら、国内外のさまざまな教育的位置づけをもつインターンシップを取りあげ、実践事例を広く分析・検討し、また教育から職業への移行システムの現状分析・診断しインターンシップを要とする産学連携型教育の可能性やこれからの教育社会について多彩に論じてきたのが本学会ですから。

学会のこれまでの研究アプローチの多彩さのもとになったのは、会員の社会的経歴や学術的バックグラウンドの多様性です。それぞれが、大学院での教育学や経営学等の学術的トレーニングを基礎として、あるいは企業・行政等での実務経験を基礎として、また現に教育実践の場や学術研究の場にあつて、それぞれの固有の経歴と視

座をこの学会に持ち込んでいます。この点は、十周年記念事業で行われた会員アンケートからもだいぶ具体的に明らかになってきたように思います。

経験とアプローチの多様さというのは、学会における共通言語によるディシプリン形成という意味では大きな課題・挑戦です。しかし、私は、こうした会員の多様性をどこかに収斂させることで「インターンシップ学」が成立するというよりも、産学連携教育という研究対象の特性からしても、むしろ積極的にその多様性を財産とすることでそれが成立するのだと考えています。

<学術>と<実践>という経歴・背景を対比させてみると、学術的な背景をもち実践に関わる会員もあれば、実践的な経験を吟味しそれを学術に繋げていく会員もあるわけです。会員それぞれが異なる世界へ飛び込み、あるいはそうした世界での経験を踏まえて自分の世界にかえり、それぞれを豊かにしていく、そうした往来・往還における「出会いと対話の場（アゴラ）」が、この学会であってほしいと願っています。

新会長として、具体的に3つの目標ないし学会運営の方向を示しておきたいと思います。第1に、<学術>的なアプローチとして、ある程度広範囲の関連学会との連携協力をとりながら、異なるバックグラウンドをもった会員が共同して行う研究活動を積極的に支援・奨励していくこと、第2に、<実践>的なアプローチとして、地域ブロック単位での支部組織とその活動を充実させ、またそれぞれの地域単位での各種の実践団体との連携・協力を充実させていくこと、そして第3に、そうした活動にかかる会員相互の情報交換、学会と学会の外と対話の場<アゴラ>を設定して広報活動を充実させることです。これからの会長任期において、学術的なアプローチと実践的なアプローチのそれぞれを明確に築きながら、そこに会員が積極的に参画できるような学会運営に尽力していきたいと存じます。どうぞ皆さま方のご協力をお願い申し上げます。

（会長 吉本圭一・九州大学教授）

会長任期を終えて

—学校と産業の接続部分に眼を向け—

このたび、日本インターンシップ学会の創立10周年を機に、学会設立準備以来携わってきた総ての役員のポストを退くことになった。10数年にわたって、理事、副会長、続いて高良和武前会長を継ぐ第2代目の会長職と、学会の歩みとともにしてきたが、無事役目を終えることができたのは、役員、会員各位の支援があったためと深く感謝したい。今後学会運営は、吉本圭一新会長を中心とした若い世代に委ねられることになる。この10数年、役員各位、全会員の努力で学会は会員も増加し、研究活動も一層活気をおびるようになった。

振り返ると、この間、社会全体も大学も、大きな変革の路を辿ってきており学会もそこから自由ではない。ことに、日本ではバブル経済崩壊後のきわめて長期の期間、大学卒から高校卒業者にいたる若年労働力の産業への導入・適応が困難をきわめた。また、企業へ職をえても短期間で退職してしまう不適応や、企業の都合によるリストラなど、若年労働力は翻弄され続けた。これは、これらの世代の人生にとっても悲劇であったばかりか、日本の20年、30年後の国益、国力に甚大なるダメージを与えたことは確かである。

一人の人間としても、卒業後の職業鍛錬、技術取得、人間形成期にフリーターや失業によって十分な体験をすることができず、結婚、家族創生、人生設計に取り返しのつかない期間となった。非行、犯罪、自己解体といったアノミー現象は目を覆うものがある。若年層の社会問題は、いずれ壮年層の社会問題に移行してゆくであろう。少子化、格差社会、貧困層の沈殿等の問題はその結果にすぎない。

学校教育期間中に、学業の一部として、あるいはそのエクステンションとして、職場体験、職業指導、キャリア設計、インターンシップ教育等の導入が期せずして広がった。これは、まさしく教育現場からの自主的、自立的、草の根の教育思想であった。大学からの発想ではあったが、すぐさま行政、経済団体、社会団体の反応もあり、1993~4年ころから自然発生的な研究、議論、論文、レポート類の発表をみることになる。

インターンシップ過程は、労働力の訓練、人間形成のうへでも、学校、企業、行政、社会、家庭の接続・連結部分であり、日本の教育の全過程での欠落部分であった。欧米では、さまざまな概念のもとに、これを担う過程があった。日本でも、インターンシップやマイスターという言葉は一般的でなかったにせよ、中小企業では、徒弟制度として、大企業では企業内学校等のかたちで存在した。それが、産業構造の変化、なかんずく自動化やIT化の進展、就職・採用活動時期の繰上げ、その他によって就職決定から、実際の就職までの空白期が拡大し、この期間に学生・生徒の学習は一気に低下した。学習とはほど遠い娯楽や習俗の影響も受ける。大学等の教育内容、

水準、気概も一段と向上したとはいえない。これらが、輻輳して学生・生徒の産業への参加時にカルチャーショック、労働意欲の減退、職業への不適応等になった。

学校—産業の接続部分の欠如は行政にも理解するところとなり、関係各省庁による初期の行政指導出動になった。本学会が今後、社会全体の事業として、また関連する各種学会と協力して所期の目的を達成してゆくことを期待したい。

(前会長 田村紀雄・東京経済大学名誉教授)

第10回大会を開催して（報告と御礼）

10月10日、嘉悦大学（創立1903年）において第10回大会を開催しました。以下のとおり、ご報告し、ご参加およびご協力、ご支援いただいたみなさまに心より御礼申し上げます。

大会は、講演、研究発表、パネリスト、司会などをお引き受け、あるいはお申し込みくださいましたみなさまのお蔭で日程が確定し、それにより参加者の関心をよぶことができました。午前8時30分の受付開始直後から、会員、非会員、小平市民のほか学生諸子が参集し、参加者は延べ200名を超えました。花小金井キャンパスはインターンシップ研究の都となり、研鑽の時間を共有する運びとなりました。

基調講演①に登壇した嘉悦大学加藤寛学長は、2020年ころまで日本経済は長期低迷を続けるとの見解を示したうえで、経済再生に向けてインターンシップの役割に期待を述べました。

基調講演②に登壇した明治大学坂本恒夫副学長は、学生の学ぶ意欲や学習目的を明確にするためインターンシップをカリキュラムに位置付ける、学生は4年次を無駄にしてはならない、と強調しました。

特別講演に登壇した、新日本有限責任監査法人 Ernst & Young の Morgan Chaudeler 氏は、国際化社会では英語、コンピュータ、会計が重視されていることを、自身の経験を踏まえ具体的に述べました。氏はフランス語、英語、日本語に堪能な国際的に活躍する米国公認会計士であり、高度なインターンシップへの取組みを示唆するものでした。

研究発表は、午前中は高良記念研究助成を受けた2名、午後は大学院、大学、企業等から27名が5箇所に分かれてセッションを行いました。シンポジウムは「インターンシップの10年—将来を見据えて—」のテーマに沿って、大学、企業の取組みを報告し、会場と活発な質疑応答がありました。

シンポジウム終了後、嘉悦大学短期大学部学生による、小平音頭をアレンジした「小平よさこい」で参加者へ歓迎の意を表し、懇親会場に移動しました。懇親会にも多く参加があり、嘉悦大学ブランドのブルーベリーワインを楽しみながら参加者同士和やかに交歓する姿がみられ

ました。来年の開催地長崎での再会を約して散会しました。

本大会には、経済同友会、小平市、小平商工会、産業文化観光総合研究所、東京経営者協会、日本インターンシップ推進協会、日本商工会議所、日本生産性本部の各機関からご後援いただいたほか、大学近隣のみなさま、学会事務局、嘉悦大学に有形無形にご協力、ご支援いただきました。開催にあたり、どれほど心強かったことかわかりません。大会テーマの副題「学び、働き、生き抜く力の強化に向けて」を実感した一年間でした。

最後になりましたが、いたらぬ実行委員長をサポートしてくださいました実行委員のみなさま、参加者のみなさまに御礼申し上げます。2010年、第11回大会開催地長崎でお会いしましょう。

(第10回大会実行委員長 古閑博美・嘉悦大学短期大学部)

第11回大会を開催するにあたって

第11回大会は、九州の代表的なリゾート・ハウステンボス（長崎県佐世保市）を主会場に開催するべく、ただ今、九州文化学園（長崎国際大学・長崎短期大学ほか）スタッフ、九州支部メンバーによる実行委員会準備を進めております。

期日は、平成22年10月2日（土）～3日（日）の2日間を予定しています。日本の西端、長崎の地での開催のため、1日目土曜日は午後よりの開会、夕刻から会場施設での懇親会、翌2日目は、午前中までの会合日程とさせていただきます。関東・関西方面からお越しの皆様も、大会当日（2日）朝からのご出発が可能です。

さて、大会プログラムの内容については、目下検討中ですが、「高等教育と地域の人材養成」「地域と連携したインターンシップの現状と課題」をテーマとし、九州支部の会員や、北部九州の短大連合組織「短期大学コンソーシアム九州」の会員校の参画・協力の基に、参加会員の皆様方の満足度を高める、より良い内容にしていきたいと考えています。

会場となるハウステンボスは1992年の開園以来、地域の短大生・大学生のみならず、縁（ゆかり）のオランダや東南アジアからの大学生等をインターンシップ生として多数受け入れた実績を持ち、園内アミューズメント施設やホテル・レストランなどでのインターンシップは、多くの学生に大変好評です。また、自然を創造し、育み、持続可能な暮らしを提案する「ボタニカルリゾート」としても進化している当該施設の、自然と共生する風景もお楽しみいただきたいと存じます。

第11回大会は、九州・長崎の秋のはじまりの季節の開催でございます。会員の皆様には、早めのご予定をいただきたくお願い申し上げます。全国からのお越しを開催地スタッフ一同、心よりお待ちしております。

(第11回大会実行委員長 安部恵美子・九州文化学園)

学会創立10周年「記念フォーラム」が開催

「記念フォーラム」は、文部科学省、厚生労働省、並びに経済産業省の後援の下、10月9日東京国際大学早稲田キャンパスにて開催された。参加者は約90名であった。

最初に、初年次におけるインターンシップの取組みやキャリア教育についての事例報告があり、その後、三省と企業、大学の代表者によるシンポジウムが実施された。シンポジウムでは、これまでの行政側の取組みについて報告され、それを受ける形で企業側と大学側代表を交えて今後の方向性や課題について議論が展開された。インターンシップが学生の職業観形成の観点からも有用であったこと、今後、産学連携による人材育成においても重要な役割を果たすことが改めて確認された。会場を提供された東京国際大学殿を始め、関係各位のご協力に対しこの場をお借りして深謝したい。なお、概要は以下のとおり。

1. 事例報告の部

(1)「産学官連携によるキャリア教育」：電気通信大学特任教授 竹内利明氏

理工系専門大学における1年生から始めるキャリア教育の現状、産業界出身の教育ボランティアの支援を得てのワークショップ、キャリア教育情報システム、授業の仕上げとして実施される事業所見学などが紹介された。

(2)「基礎・教養教育としてのインターンシップ」：首都大学東京准教授 林 祐司氏

基礎・教養教育科目として位置づけられている都市教養プログラムのなかで、現場体験型インターンシップ（2単位）が開講され、初年次生、550人が参加するインターンシップの事前・事後の学習や実習効果について考察された。

2. シンポジウムの部

パネリスト：下大田真一（文部科学省）、小野總（厚生労働省）、小原春彦（経済産業省）、吉本圭一（九州大学）、坂田甲一（凸版印刷） 司会：加藤敏明（立命館大学）の各氏

行政側として、文部科学省から、「教育改革プログラム」に盛り込まれたインターンシップは、その後の大学審や中教審において、長期間にわたる質の高いインターンシップの推進についても提言され、2005年度からは3ヶ月以上の実践型長期インターンシップが実施された。中間評価では「大学と企業との組織的連携、教育課程全体のなかでの体系的な位置づけ、目標・目的等を明確化することの必要性」などが指摘された。厚生労働省からは、学生職業総合支援センター、学生等職業相談室などの充実を図っており、若年者雇用対策の面からもインターンシップの推進について全力で取り組んでいることの報告があり、経済産業省からは、産学連携が技術面だけでなく文理融合、地域振興などが始まった第四世代にある現状において、次世代の産業技術を担う人材育成のためにも高度化されたインターンシップが大きな役割を担うことが強調された。

(10周年記念事業WG委員長 田中宣秀)

理事会報告

2009 年度第 1 回理事会 (6/27@九州大学西新プラザ)

- (1) 2008 年度決算案、監査報告について
2008 年度決算案および監査報告が行われ、原案どおり承認された。
- (2) 第 9 回大会決算報告
石田大会実行委員長より、決算報告が行われ原案どおり承認された。
- (3) 2009 年度予算案、活動計画について
2009 年度予算案について、原案どおり承認された。
- (4) 第 10 回大会の準備状況について
古閑大会実行委員長より準備状況の報告がされた。
- (5) 理事選挙、会長選挙について
石田選挙管理委員長より、理事選挙についての報告が行われた。5 月 9 日に理事選挙開票作業が行われ、その結果をもとに理事候補者に就任依頼を行い、6 月 2 日に 20 名の新理事候補が確定された。理事候補の中から会長候補を決める方法、スケジュールについては、引き続き理事選挙委員会で運営されることが承認された。
- (6) 会計年度の見直しについて
会計年度と総会年度との時期の開きについての監事からの指摘を受けて、会計年度の見直しを検討することになった。

2009 年度第 2 回理事会 (8/29@筑波大学)

- (1) 第 10 回大会準備状況について
田中大会実行副委員長より、第 10 回大会準備状況が報告された。
- (2) 10 周年記念事業について
田中 WG 委員長より、10 月 9 日開催予定の「インターンシップ学会創立 10 周年記念フォーラム」についての準備状況等についての報告がされた。
- (3) 2009 年度高良記念研究助成について
太田委員長より、高良記念研究助成について、審査委員会の選考結果をふまえ、1 名の研究助成採択について審議承認された。
- (4) 会長選挙について
石田選挙管理委員長より、8 月 5 日に選挙管理委員会が開催され、吉本圭一理事候補が会長候補として選出されたことが、報告された。
- (5) 会計年度の改訂について
現行の会計年度 4~3 月を、総会と会計年度を近づけるため 7~6 月に変更することが提案された。

(事務局)

2009 年度総会報告

2009 年度総会が、2009 年 10 月 10 日 (土) 嘉悦大学において開催され、以下の報告・審議が行われた。

- (1) 2008 年度事業報告、活動報告
原案どおり承認された。
- (2) 2008 年度決算報告、監査報告

事務局より決算報告後、横山皓一監事より監査報告があり、承認された (詳細は「2008 事業ならびに決算報告」を参照)。

- (3) 会則改正について
会長より事業年度・会計年度の改正に伴う提案があり、承認された (詳細は「会則改正について」を参照)。
- (4) 2009-2010 年度役員および委員会組織について
石田選挙管理委員長より理事選挙、会長選挙の結果が報告され、新会長より役員、委員会等構成についての提案がなされ、別項「2009-2010 年度役員について」「2009-2010 年度委員会等構成について」のとおり承認された。
- (5) 2009 年度事業計画、予算について
事務局より提案があり、原案どおり承認された (詳細は「2009 年度事業計画ならびに予算」を参照)。
- (6) 高良記念研究助成について
2009 年度採択者の河野志穂会員 (早稲田大学大学院) への研究助成金および賞状の授与が行われた。
- (7) 第 11 回大会について
第 11 回大会を九州文化学園で開催することが報告され、承認された。

(事務局)

会則改正について

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、総会にて下記のとおり会則が改正されました。

現
(事業年度) 第 4 条 本会の事業年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
(会計年度) 第 23 条 本会の会計年度は事業年度と同様とし、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

改正案
(事業年度) 第 4 条 本会の事業年度は毎年 <u>7 月 1 日</u> に始まり、翌年 <u>6 月 30 日</u> に終わる。
(会計年度) 第 23 条 本会の会計年度は事業年度と同様とし、毎年 <u>7 月 1 日</u> に始まり、翌年 <u>6 月 30 日</u> に終わる。
付則 (経過措置) 2010 年度事業年度、会計年度は、平成 20 年 4 月 1 日に始まり、平成 20 年 6 月 30 日に終わる。

2008年度事業報告ならびに決算報告

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2008学会年度事業報告ならびに決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

(事務局)

2008(平成20)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書 (2008年4月1日～2009年3月31日)

【一般会計】

(単位:円)

支出の部	2008年度予算(a)	2008年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2008年度予算(a)	2008年度決算(b)	予実差異(b-a)
研究会費用	400,000	219,149	-180,851	会費収入	1,475,000	2,230,000	755,000
(東京会場)		19,149	19,149	(個人会員)	810,000	1,130,000	320,000
(関西支部)	100,000	100,000	0	(学生会員)	25,000	60,000	35,000
(九州支部)	100,000	100,000	0	(法人・団体会員)	640,000	1,040,000	400,000
大会開催費補助	300,000	300,000	0	研究会収入	5,000	9,000	4,000
年報作成費	400,000	354,710	-45,290	書籍・年報等販売収入	12,000	20,500	8,500
記念事業費	200,000	88,188	-111,812	その他	500	354	-146
名簿作成費	50,000	95,841	45,841	(受取利息)	500	354	-146
通信費	150,000	69,610	-80,390	(雑収入)	0	0	0
HP修正・改善費	100,000	14,000	-86,000	大会開催費余剰金	0	75,040	75,040
その他運営費	300,000	327,700	27,700	関西支部余剰金	0	37,380	37,380
				九州支部余剰金	0	35,633	35,633
次年度繰越金	1,332,609	2,678,818	1,346,209	前年度繰越金	1,740,109	1,740,109	0
合計	3,232,609	4,148,016	915,407	合計	3,232,609	4,148,016	915,407

【特別会計(高良記念研究助成)】

(単位:円)

支出の部	2008年度予算(a)	2008年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2008年度予算(a)	2008年度決算(b)	予実差異(b-a)
2008年度研究助成金(2件採択)	200,000	200,000	0	受取利息	500	1,199	699
振込手数料	1,500	210	-1,290	寄付金(榎本淳子氏)		200,000	200,000
次年度繰越金	598,940	800,929	201,989	前年度繰越金	799,940	799,940	0
合計	800,440	1,001,139	200,699	合計	800,440	1,001,139	200,699

2008(平成20)年度 貸借対照表兼財産目録(2009.3.31現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	3,479,747	流動負債	0
手持現金	23,501		
預金	3,456,246	固定負債	0
福岡銀行(一般会計)	77,827		
福岡銀行(特別会計)	800,929	純資産	
郵便振替口座	2,577,490	剰余金	3,479,747
		(一般会計繰越金)	(2,678,818)
固定資産	0	(特別会計繰越金)	(800,929)
資産合計	3,479,747	負債・純資産合計	3,479,747

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2009年度事業計画ならびに予算

「理事会・総会報告」で報告いたしましたとおり、2009学会年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。(事務局)

2009(平成21)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2009年度予算額	前年度予算額	2008年度実績	2007年度実績	2006年度実績	予算増減
会費収入	小計	1,680,000	1,475,000	2,230,000	2,065,000	1,275,000	205,000
	個人会員(10,000円)	880,000	810,000	1,130,000	1,170,000	770,000	70,000
	学生会員(5,000円)	60,000	25,000	60,000	55,000	5,000	35,000
	法人・団体会員(20,000円)	740,000	640,000	1,040,000	840,000	500,000	100,000
事業収入	小計	18,000	17,000	29,500	30,000	7,000	1,000
	研究会収入	6,000	5,000	9,000	9,000	3,000	1,000
	書籍・年報等販売収入	12,000	12,000	20,500	21,000	4,000	0
雑収入	小計	400	500	148,407	133,424	30,767	-100
	受取利息	400	500	354	1,197	127	-100
	その他の収入	0	0	0	160	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	75,040	82,067	0	0
	関西支部余剰金	0	0	37,380	50,000	30,640	0
	九州支部余剰金	0	0	35,633			0
当期収入合計(A)		1,698,400	1,492,500	2,407,907	2,228,424	1,312,767	205,900
前期繰越収支差額		2,678,818	1,740,109	1,740,109	664,877	513,704	938,709
収入合計(B)		4,377,218	3,232,609	4,148,016	2,893,301	1,826,471	1,144,609

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2009年度予算額	前年度予算額	2008年度実績	2007年度実績	2006年度実績	予算増減
事業費	小計	1,450,000	1,350,000	1,057,888	787,256	955,905	-100,000
	研究会開催費	400,000	400,000	219,149	144,406		0
	研究会費用(東京)			19,149	44,406	112,700	
	研究会費用(関西)			100,000	100,000	100,000	
	研究会費用(九州)			100,000			
	研究会費用(北海道)						
	大会開催費	300,000	300,000	300,000	300,000	421,700	0
	年報作成費	450,000	400,000	354,710	278,930	321,505	-50,000
	記念事業費	200,000	200,000	88,188	0	0	0
	役員選挙費 名簿作成費	100,000 0	50,000	95,841	63,920	0	-100,000 50,000
事務管理費	小計	650,000	550,000	411,310	365,936	205,689	-100,000
	通信費(郵送料等)	150,000	150,000	69,610	97,660	10,920	0
	HP修正・改善費	100,000	100,000	14,000	89,700	31,200	0
	その他運営費	400,000	300,000	327,700	178,576	163,569	-100,000
当期支出小計	2,100,000	1,900,000	1,469,198	1,153,192	1,161,594	-200,000	
予備費	予備費	2,277,218	1,332,609	2,678,818	1,740,109	664,877	-944,609
当期支出合計(C)		4,377,218	3,232,609	4,148,016	2,893,301	1,826,471	-1,144,609
当期収支差額(A)-(C)		-2,678,818	-1,740,109	-1,740,109	-664,877	-513,704	938,709
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	0	0	0

2009(平成21)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2009年度予算額	前年度予算額	2008年度実績	2007年度実績	予算増減
寄付金		0	0	200,000	0	0
積立金	小計	0	0	0	0	0
雑収入	小計	500	500	1,199	990	0
	受取利息	500	500	1,199	990	0
	その他の収入	0	0	0	0	0
当期収入合計(A)		500	500	201,199	990	0
前期繰越収支差額		800,929	799,940	799,940	1,000,000	-989
収入合計(B)		801,429	800,440	1,001,139	1,000,990	-989

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2009年度予算額	前年度予算額	2008年度実績	2007年度実績	予算増減
高良記念研究助成金		200,000	200,000	200,000	200,000	0
事務管理費	小計	1,500	1,500	210	1,050	0
	振込手数料	1,500	1,500	210	1,050	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	599,929	598,940	800,929	799,940	-989
当期支出合計(C)		801,429	800,440	1,001,139	1,000,990	-989
当期収支差額(A)-(C)		-800,929	-799,940	-799,940	-1,000,000	989
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	0	0

年報編集委員会報告

研究年報 12 号の発刊について

大変遅くなりましたが、研究年報 12 号を 7 月末に発刊することができました。

今回は、論文 3 篇、研究ノート 5 編と学会大会が掲載されております。

大会報告結果として、地域における産学官の連携についての基調講演とインターンシップにおける地域連携についてのシンポジウムの議論を掲載しております。

(年報編集委員会前委員長 石田宏之)

平成 21 年度 高良記念研究助成対象者の決定

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展、普及のため、平成 19 年度からこの助成制度を設けて、会員（個人・法人・学生）に対して、優れた研究課題への助成を行っています。平成 19 年度の第 1 回研究助成を受けた 2 名の研究者は、平成 20 年 9 月の第 9 回大会（豊橋創造大学）で成果を発表しました。

次いで平成 20 年度の第 2 回研究助成には、7 件の応募があり、審査委員会による審査を経て、2 名に対して研究助成を行うことを決定しました。同 2 名の研究者は、平成 21 年 10 月に嘉悦大学で開催された第 10 回大会で成果を発表し、高良記念研究助成がインターンシップの研究促進に着実に貢献しつつあることをうかがわせました。

平成 21 年度の第 3 回研究助成には、1 件の応募があり、審査委員会による審査を経て理事会において、次の 1 名に対して研究助成を行うことを決定しました。

・河野 志穂（早稲田大学大学院教育学研究科）

「文系大学のインターンシップが大学での学びに与える効果—早稲田大学の事例として—」助成額 95 千円、単独研究

研究期間は、平成 22 年 9 月末までの 1 年間で、平成 22 年の大会で成果を研究発表することになります。またその 1 ヶ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出することになります。

平成 22 年度には、第 4 回研究助成を募集します。募集期間は、平成 21 年度の例では、4 月～6 月 20 日までとなっています。なお「物品費＋謝金の合計が全体金額の 1/2 まで」という点を、ぜひ守るようお願いします。

(高良記念研究助成審査委員長 太田和男)

2009-2010 年度役員について

2009 年度総会におきまして、2009-2010 学会年度

役員が下記のとおり決まりました。(五十音順、敬称略)

●会長

吉本圭一

●副会長

加藤敏明、館昭

●常任理事

安孫子勇一、石田宏之、稲永由紀、太田和男、
亀野淳、古閑博美、田中宣秀、那須幸雄

●理事

青野友太郎、安部恵美子、伊藤文男、江藤智佐子、
見目喜重、沢田隆、高橋保雄、椿明美、中原淳二、
長尾博暢、槇本淳子、真鍋和博、横山修一、宮原
隆史、横山皓一、渡邊和明

●監事

牛山佳菜代、小川浩平

●顧問

天谷正、金田昌司、田村紀雄、内藤洋介

●名誉会長

高良和武

(事務局)

2009-2010 年度委員会構成について

2009-2010 年度役員選出を受けて、2009-2010 年度委員会等構成が下記のとおり決まりました。(五十音順、敬称略)

●事務局 (◎は事務局長)

◎亀野淳、沢田隆、高橋秀幸、田崎悦子、椿明美

●年報編集委員会 (◎は委員長、○は副委員長)

◎安孫子勇一、石田宏之、伊藤文男、○稲永由紀、
亀野淳、新谷康浩、館昭、長尾博暢、福岡哲朗

●広報委員会 (◎は委員長、○は副委員長)

青野友太郎、◎石田宏之、○江藤智佐子、
見目喜重、古閑博美、中原淳二、槇本淳子、
横山修一、渡邊和明

●2009 年度高良記念研究助成審査委員会

(◎は委員長)

◎太田和男、川井良介、椿明美、富田宏治、
那須幸雄

●十周年記念事業ワーキンググループ (◎は委員長)

天谷正、加藤敏明、亀野淳、◎田中宣秀、
田村紀雄、那須幸雄、横山皓一、吉本圭一

●企画研究ワーキンググループ

(◎は委員長、○は副委員長)

稲永由紀、牛山佳菜代、○加藤敏明、古閑博美、
沢田隆、高橋保雄、長尾博暢、真鍋和博、
◎吉本圭一

(事務局)

支部活動報告 関西支部

第5回研究会開催に向けて

関西支部は来る12月5日、大阪経済大学大隅キャンパスにて本年度の定例(第5回)研究会を開催する。昨年度まで系統的に取組んできた学校種を離れ、本年度からは大学教育改革の中でのインターンシップの果たすべき役割を考察するために、正課カリキュラムへの位置づけをテーマに研究会を重ねる予定である。その第一弾が「教養教育」だ。正確なデータはないが、おそらく全国の大学、短大、高専において最も多い事例が、教養教育として取組むインターンシップであろう。そもそもインターンシップはキャリア教育に不可欠の人間教育の要素を併せ持っており、教養教育に馴染みやすい。教育効果から見て教養教育に近いという認識で取組まれていると思われる。その半面、正課カリキュラムでの位置づけを見ると、単位認定を伴いながら事実上課外に近い位置に置かれるケースが多く、明確に正課として位置づけられる事例は意外に少ない。

そこで、今回の研究会では全国的にも知名度の高い秀逸な、正課カリキュラムに教養教育としてインターンシップを明確に位置づける二つの研究発表を用意した。

研究発表1は、圓月勝博文学部教授(教育支援機構長)をお招きした同志社大学の取組である。この取組は、平成19年度の現代GPに採択された「アクションプラン主導発見的キャリア教育」であり、今年が最終年度となる。その意味で総括的な成果が示されることを期待したい。体験型教養教育を提唱する同志社大学にあって、キャリア形成プロジェクト、インターンシップ、ボランティア活動の3プログラムを統合した全学対象の複合型キャリア形成支援プログラムが取組の骨格。インターンシップにおいても、低年次から高年次までキャリア発達段階に応じたプログラムが体系的に用意されている点に優れる。

研究発表2では、本学会会員(関西支部運営委員)でもある富田宏治関西学院大学法学部教授(キャリア教育プログラム室長)に同大学の取組を紹介いただく。こちらも平成18年度に現代GPに採択された「教養教育としてのライフデザインプログラム」を母体とした取組の成果が示される。

教養教育の再構築を掲げる同大学では、学生たちの人生観や職業観の涵養を促すライフデザインプログラムに取組んできた。中でも、各種インターンシップ(Onedayインターンシップ、キャリアインター

ンシップ、インターンシップ実習)が1~3年生に配置され、それぞれの役割をもとに正課に、あるいは正課外との中間的な位置に置かれている柔軟な配置に特長がある。

両大学とも従来から高次の教養教育を展開しており、二つの取組はさらにブラッシュアップを図るものである。インターンシップが教養教育の中でどのような役割を果たしうるか、ともに一定の取組成果が総括されつつある時期でもあり、関西支部としても大きな期待感をもっている。

(関西支部支部長 加藤敏明)

九州支部

平成21年度 第2回研究会

[日時]平成21年11月13日(金)17:30~20:00

(受付17:00開始)

[会場]電気ビル5号会議室

(福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号)

[テーマ]『インターンシップ、新しいステージへマッチングから産官学連携教育へ』

[プログラム(予定)]

オープニング吉本圭一(九州大学)

発表①『インターンシップ受入側(企業)の取り組みについて—株式会社ミドリ印刷』三戸信一(株式会社ミドリ印刷)

発表②『教職連携ですすめるインターンシップ~筑紫女学園大学2008年度取組みを中心に~』竹山優子(筑紫女学園大学)

発表③『インターンシップタイプによる基礎力向上効果と就職活動への影響について』真鍋和博(北九州市立大学)

発表④『専門学校における日本版デュアルシステムの開発的研究~ワーキングスタディ科の事例を中心に~』渡邊和明(福岡カレッジ・オブ・ビジネス)

総括

平成21年度 第1回研究会

[日程]平成21年6月27日(土)

[会場]九州大学西新プラザ

九州支部平成21年度第1回研究会は、九州支部設立からちょうど1年目にあたる6月27日(土)に開催しました。テーマは『九州からグローバルなインターンシップを考える』として、留学生にまつわるインターンシップを中心に、実践的な活動をされている方にご発表をいただきました。

一人目は、大学コンソーシアムおおいた事務局長代理、太神(おおが)みどり氏が『受け入れ側のメリットとなる留学生インターンシップへの取組み』というテーマで発表。留学生に特化したサービスを目的に設立された大学コンソーシアムという、我が国でも先駆的な組織での留学生インターンシップにつ

いてご報告いただきました。

二番目は、九州アジア人財協議会事務局長 馬場研二氏による『アジア人財資金構想プログラムにおける留学生インターンシップ』。留学生を受け入れるだけでなく、アジアで人財を還流させることを目的に、各国からの多数の留学生の受入れと、日本で働くための基礎的な能力獲得支援について示唆に富んだご報告をいただきました。

三番目は、『海外インターンシップの現状と課題』というテーマで、ライトハウスキャリアエンカレッジ株式会社代表取締役、高島一郎氏にご発表いただきました。日本の学生を米国企業へインターンシップ生として送り出しているサービスの現状と課題について、学生の基礎力形成という側面を中心に話題提供をいただきました。

最後に、吉本圭一九州支部長から、当日の総括とともに、実践報告も視野に入れた当学会のあり方について提案がなされました。

九州支部としては、年間2回の研究会実施を今後も予定しており、大学関係者のみならず、企業関係者にも参加しやすい研究会をめざしていきたいと考えています。

(九州支部副支部長 真鍋和博)

事務局からのお知らせ

事務局の移転について

「上記 2009-2010 年度委員会等構成について」でご案内したとおり、事務局が九州大学から北海道大学に移りました。新しい事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
北海道大学 高等教育機能開発総合センター
キャリア教育支援室内
E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp
電話&FAX 011-706-5147

※なお、お問い合わせはできる限りメールまたは FAX でお願いいたします。

新事務局長あいさつ

今回、新しく事務局長を仰せつかった北海道大学の亀野です。

事務局はこれまでの南の九州から一気に北上し、北の北海道に移転することになりました。関東、関西の会員にとっては、引き続き遠方の事務局となり、不便をおかけするかもしれません。

事務局は、基本的には「縁の下の力持ち」であるべきだと思っております。少々「力」が不足気味で

はありますが、会員の皆様が気持ちよく、また、有意義な学会活動ができるようサポートしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

会員情報変更の連絡について

所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届け下さい。連絡先が不明になりますと、年報やニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意下さい。

会費納入のお願い

2009 年度会費納入を受け付けております。会費未納の方は、今回お送りいたしました郵便振替用紙かゆうちょ銀行からの振込（ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です）で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

なお、今回の事務局移転に伴い、振込先も変更になっていますのでご注意ください。新しい振込先は以下のとおりです。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【銀行振込】

北洋銀行 北七条支店

(普通) 3927955

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップ ガツカイ」と入力下さい。)

日本インターンシップ学会 News Letter 2009 No.2

平成 21 年 11 月 25 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 亀野 淳

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学 高等教育機能開発総合センター キャリア教育支援室内

E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp 電話&FAX 011-706-5147

Website <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsi/>